

# 令和元年度授業改善プラン

## 中野区立中野中学校

### 1 全体計画

#### 【教育目標】

英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

#### 【校訓】

自律 共生 創造

#### 【令和元年度学校経営方針】

##### (基本方針)

- ☆教育目標・経営方針のもと、具現化を目指し全教職員が一体となって全生徒を育てる。
- ☆何よりも授業を大切に、その土台となる学級活動を充実し、行事・部活動も活性化して知・徳・体のバランスのよい生徒を育てる。
- ☆教師が時代のニーズにあった研究・修養に励み自己を成長させ、意識改革・行動改革・働き方改革を図る。

##### (経営の重点：学習指導に関連したものの抜粋)

- 授業規律の徹底し、基礎・基本の習得とそれらを活用する力を育てる。全体的に学ぶ授業改善、ICT、UDLの活用等を通して、生徒の意欲を高めるわかりやすい授業を目指し、適正で信頼される学習評価の実施する。
- 年間指導計画のもと、標準授業時間数を確保し、単元・その時間の指導のねらいを明確にして日々の授業を行う。→「ねらいの視覚化」「主体的な活動」「振り返りの時間確保」
- 家庭への働きかけを通して、授業の予習・復習を中心に家庭学習の習慣化を図る。
- 「家庭学習の手引き」を保護者・生徒へ示し、家庭学習時間が、[学年×10分+60分]以上となるよう、計画的に家庭学習をする習慣を身に付けることを目指す。
- 読書活動を推進し、主体的に学ぶ姿勢をはぐくむ。
- 読書が人間性をはぐくむ有意義な習慣であることを生徒に浸透させていく。
- 8時25分からの静かな環境の中で朝読書を徹底し、月2冊以上本を読む生徒が50%以上なることを目指す。

#### 本校のとらえる「確かな学力」

- 各教科における基礎的・基本的な知識や技能の定着
- 基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力（特にコミュニケーション能力）の育成
- 主体的に授業・家庭学習・読書に取り組む態度の育成

#### 令和元年度の指導の重点

##### 〈各教科〉

- ・ 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために指導と評価の一体化を工夫した授業を展開するとともに、任期付短時間勤務教員の活用を通して、ティームティーチング、少人数学習熟度別による指導、学生ボランティア等により生徒一人ひとりの学習意欲を高め、良さや可能性を伸ばせるような評価を工夫する。
- ・ 国や東京都、中野区の学力調査の結果を分析して授業改善プランを作成し、より分かりやすい授業を一層推進するとともに、一人ひとりに応じた補充的な学習の実施や夏の補充学習教室、定期考査前学習支援などで家庭との連携を通して、自主的な学習習慣及び学習内容の確かな定着を目指す。
- ・ あらゆる教育活動を通して、情報収集・記述・発表・話し合い等の言語活動を充実し、コミュニケーション能力を高めるとともに、主体的・対話的な深い学びを展開することにより、自ら学び考える力を育成し、各教科の目標を達成することを目指す。

##### 〈道徳〉

- ・ 教育活動全体を通じた道徳教育を充実させ、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めることを重視し、生徒が自他の生命、人権を尊重し、礼儀正しさ、規範意識・思いやりの心・感謝の気持ちなどの公共の精神及び、自己肯定感を大切にできるよう指導する。
- ・ 道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画に基づいて「私たちの道徳」や

「心みつめて」、教科書を活用し、考え、議論する道徳の時間を系統的に進めるとともに、指導方法の工夫・改善を図り、道徳性を養い学習過程を通じた生徒の成長を、記述により適切に評価していく。

##### 〈特別活動〉

- ・ キャリア教育の要として学級活動や生徒会活動、宿泊体験学習等を含めた学校行事や集団活動を通して、望ましい人間関係を築き、いじめの未然防止となる指導を工夫するとともに、課題を自主的・実践的に解決しようとする集団としての合意形成を育成する。体験的な学習を重視し、自己の生き方についての考えを深め、主体的に学んで将来設計、進路選択をする態度を養う。

##### 〈総合的な学習の時間〉

- ・ 全体計画に基づき、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるように、総合的な学習や探究的な学習・課題解決的な学習を取り入れ、自ら課題を設定し見付けて学び、主体的に判断し、よりよく課題を解決する能力を育成する。

##### 〈生活指導〉

- ・ 将来の社会の形成者として、基本的な生活習慣を身に付け、集団の中での役割と責任を自覚し、規範を守る態度を育成する。

##### 〈進路指導〉

- ・ キャリア教育全体計画、年間指導計画に基づいて、発達の段階に応じた系統的な指導を重視し、学ぶことや働くことの意義を十分理解し、望ましい勤労観・職業観を形成できるような指導を心がける。

#### 授業改善の視点

##### 指導内容・指導方法の工夫

- ・ 少人数やティームティーチングによる指導
- ・ ICT、UDLの効果的な活用
- ・ 学生ボランティアの活用

##### 教育課程編成上の工夫

- ・ 二学期制
- ・ 朝読書
- ・ 面談の活用
- ・ 年間指導計画の見直し

##### 評価の工夫

- ・ 確かな学力の共通理解
- ・ 評価基準の見直し
- ・ 継続的な評価の工夫

##### 校内研究・研修の工夫

- ・ 道徳授業の工夫改善
- ・ キャリア教育、小中連携の推進

##### 家庭・地域との連携の工夫

- ・ 乗り入れ指導の実施
- ・ 「家庭学習の手引き」の活用
- ・ 地域人材の活用

## 学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

生徒の一人ひとりの学力をのばすために、生徒一人ひとりの学習状況に応じたきめ細やかな指導、基礎学力の定着しない生徒への学習支援、少人数指導、ティーム・ティーチング、放課後の学習指導や教材作成などを行い、学力向上を目指す。

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

#### 国語科の重点

- 漢字の読み書きと語彙の習得
- 説明的文章の読解を通じた論理的思考力の育成
- 複数資料の比較や対話的活動を通じた自分の考えの形成

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観点別正答率、領域別成長率ともに、すべての項目で目標値を上回っている。</li> <li>○問題別正答率を見ると、「話の内容を聞き取る」ことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的に応じて必要な情報を聞き取る力が不足している。</li> <li>○語彙量や、漢字に関する知識が不足している生徒がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業内で聞き取りや読み取りを行う際、目的を意識させ、その場に即して必要な情報を考えさせる。</li> <li>○文脈で単語の意味を類推する練習をするなど、語彙力の向上を図る。</li> <li>○学習した漢字を意識的に使うように、指導を徹底する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観点別正答率、領域別正答率を見ると、すべての項目で目標値を上回っている。</li> <li>○問題別正答率を見ると、「漢字を書く」ことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読むことのできる漢字は増えているが、書くことのできる漢字の量が十分でない。</li> <li>○説明的な文章を正しく読み取り、それをもとにして自分の考えを形成していく力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字に関しては、習ったものは意識的に使うよう指導を徹底し、日常生活で使っていけるような語彙力の向上を目指す。</li> <li>○事実と意見を区別しながら文章を読み、その区別をもとに自分の考えをまとめていく活動を取り入れる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観点別正答率、領域別正答率、問題別正答率のいずれにおいても、すべての項目で目標値を上回っている。</li> <li>○「読むこと」に関しては、説明的な文章の読み取りに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○説明的な文章の読み取りにおいて、文章構成や要旨を捉えることに苦手意識がある。</li> <li>○語彙に関しては、同音異義語のそれぞれの意味の違いを理解していないため、場面ごとに正しい用法で漢字を使えない様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要約などを通して、大枠からキーセンテンスを探し出すような練習を行う。</li> <li>○漢字練習では覚える漢字単体でなく、文章をまとめて覚えられるようにする。</li> <li>○辞書を活用しながら、言葉の意味を理解した上での文章読解をさせる。</li> </ul>

(2) 社会科

社会科の重点

- 基礎的・基本的な知識および技能の習得を重視する。
- 言語活動の充実の観点から、社会的な見方、考え方を養うことを重視する
- 社会参画、様々な伝統や文化、宗教に関する学習などを重視する。
- 持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な課題の探究と考えをまとめる学習を行う。

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
E	<p>○観点別正答率では、「社会的事象についての知識・理解」のみ目標値を0.6ポイント下回っているが、他の観点は目標値を上回っている。</p> <p>○領域別では、「我が国の歴史」が目標値を1.2ポイント、「世界の中の日本の位置」が2.5ポイント下回っているが、他の領域は目標値を上回っている。</p> <p>○問題の内容別では特に、「天皇中心の国づくり」「世界の中の日本」の2つに課題を感じている生徒が多い。</p>	<p>○授業では積極的に取り組む生徒が多く、発言も活発である。一方で、基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。</p> <p>○地図に地名を書き込む作業や資料の読み取りなど、資料活用の技能に関しては個人差が大きい。</p> <p>○資料から必要な情報を読み取り、整理したり表現したりすることに課題を感じている生徒も一部見られる。</p>	<p>○より意欲的に授業に参加する姿勢を身に付けさせるため、家庭学習の課題等を出題し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>○地図帳・資料集を活用し、資料の読み取りや白地図への書き込み作業を繰り返し行うことで、資料活用の技能や表現力を高める指導を行う。その際、資料から読み取ったことや考察したことを発表する活動も取り入れていく。</p>
2 E	<p>○観点別正答率、領域別正答率ともにすべての項目で目標値より上回っている。</p> <p>○問題の内容別では、「中世の日本」は、他の問題に比べる課題を感じている生徒が多い。</p>	<p>○真面目に取り組む生徒が多い一方で、集中力の持続や主体的な学びに課題が見られる生徒がいる。</p> <p>○基礎的な知識・理解の定着が図れていない生徒がいる。また、既習内容を活用して表現することに苦手意識をもっている生徒が一部見られる。</p>	<p>○ペア学習やグループ活動を行い、多様な視点から学ぶ機会を設定することで、生徒が主体的に学べるようにする。</p> <p>○ワークや復習プリントを活用し、繰り返し問題を解くことで基礎基本事項の定着を図る。</p>
3 E	<p>○全体の正答率、基礎の正答率、活用の正答率の全てで目標値を上回る結果となった。観点別正答率でも全てで目標値を上回る結果となった。</p> <p>○問題の内容別では、「身近な地域の調査」は、他の問題に比べると課題を感じている生徒が見られる。</p>	<p>○学習に対する姿勢は概ね良好で、個別のまとめ作業には積極的に取り組み、基礎的な知識を定着させている生徒が多いが、資料活用の技能に課題を感じている生徒も一部見られる。</p>	<p>○地理や歴史の基礎基本問題の確認を行い、学習の定着を図る。</p> <p>○「小テスト」などを多く行い、資料の活用に課題を感じている生徒に達成感を感じさせ、モチベーションを高めさせる方策をとる。</p>

(3) 数学科

数学科の重点

- 「生徒が考える授業」「生徒が主体的に取り組む授業」の実現に向けて指導法の工夫改善を行う。
- 習熟度別指導を活用し、効果的な個別指導を行う。
- 継続的に学習課題を提供し、家庭学習の定着を図る。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観点別正答率では、4観点全てが目標値を上回っている。</li> <li>○領域別で見ると、4領域全てが目標値を上回っている。</li> <li>○問題の内容別では、「百分率」で目標値を校内平均値が1.9ポイント下回っていることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○少人数クラスの中でも、基礎コースが生徒の学力の差が大きい。</li> <li>○文章問題では、問題を読み解く力がやや不足し、特に「割合」の問題を苦手としている生徒が多い。</li> <li>○授業で学習した内容を定着させるための家庭学習の充実が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○4人組グループの中で学び合い学習を行う時間を取り入れ、お互いに教え合いながら、どの生徒も意欲的に問題に取り組めるようにする。</li> <li>○問題文から条件を正確に読み取るために、図や表を用いることで、視覚的に理解できるように工夫をする。</li> <li>○授業ごとに、復習の範囲で課題を与え、家庭学習の習慣が定着するよう指導する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観点別正答率が、4観点全てで目標値を5ポイント以上上回っている。</li> <li>○領域別で見ると、4領域すべてが目標値を上回り、図形、資料の活用領域では10ポイント以上上回っている。</li> <li>○問題の内容別正答率も全てで目標値を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○真面目に授業は受けているが、主体的に考え、質問や発言をする生徒が少ない。</li> <li>○少人数クラスの中でも、基礎コースが生徒の学力の差が大きく、個々に対応しないと全く手を動かさない生徒が数名いる。</li> <li>○家庭学習がしっかりとできていないため、授業内では理解できていることが、日数をおいてのテストでは解くことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の中に、考える時間を十分にとり、また4人組グループの中でお互いに学び合う機会をつくることで、生徒が主体的に取り組めるようにしていく。</li> <li>○学生ボランティアにも協力してもらい、きめ細かい机間指導を行う。できるだけ授業内でサポートするようにするが、試験前の補習教室も活用する。</li> <li>○授業内での理解にとどまらないよう、授業ごとに宿題を出し、家庭学習から定着を図れるようにしていく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○区学力調査では観点別正答率が4観点すべてで目標値を13P以上上まっていた。問題毎の正答率もほぼ目標値を10P以上上回り、証明や資料の活用では目標値よりも15P越えるものが多い、ある程度の力がついていることがわかる。</li> <li>○道のりに関する立式されたx、yが何を表しているかの解答を、目標値を5.2P下回っているため、文字式がどんな数量関係を表しているかを表現できるようにさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章を読解して立式したり、グラフからその特徴を読み取ることが苦手である。</li> <li>○計算することや図形の角度を求めることなどは概ねできるが、条件や性質など細かいところまで意味を理解している生徒は半分くらいである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成り立つ根拠を考える機会をつくるために、条件を読み取り結論を導いたことを、グループ学習を通してお互いに教え合う展開を取り入れる。</li> <li>○授業の復習ができるように、数問宿題を出し、家庭学習から定着を図れるようにしていく。</li> </ul>

習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

全学年で少人数・習熟度別授業を行っており、クラスごとの定着状況や生徒のニーズに合わせた学びが展開できている。また、少人数での指導により、一人一人の学習によりきめ細やかに指導することが可能となり、生徒からの質問への対応が充実し、自主的に質問する生徒も増え、多様な視点から学び合うことができる。

(4) 理科

<p>理科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てる。</li> <li>●観察・実験の結果を整理し考察する学習活動、科学的な用語を使用して、考えたり説明したりする学習活動、探究的な学習活動を充実する。</li> <li>●科学的な知識の定着や論理的な考え方を養う。</li> <li>●自然現象に興味をもたせたり、自然体験、科学的な体験を充実させたりする。さらには、科学的な表現を使いまとめる方法や発表する方法を習得する。</li> </ul>
---

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>○全体の正答率は概ね目標値に近い結果であったが、内容別の「物の燃え方」「動物・植物の体のつくりとはたらき」「大地のはたらき」が目標値を大きく下回った。各単元の基礎基本の定着が不十分であると考えられる。</p>	<p>○目標値を下回った領域では、知識の定着が不十分である。</p> <p>○授業・観察・実験の学習のねらいを明確にして授業を実践する。</p>	<p>○授業の中で、生徒が考える時間、話し合う時間を確保し、思考力、表現力を向上させる。</p> <p>○毎時間ごとに授業評価を行い、学習意欲を向上させる。</p> <p>○単元ごとに小テストや復習ノートなどに取り組み、基礎基本の定着を図る。</p>
2年	<p>○全体の正答率は概ね目標値を上回る結果であったが、観点別の「知識・理解」、また領域別の「生命」「地球」では目標値を下回った。内容別でみると、特に「植物の分類」「火山」が低く、単元により、基本的な知識理解が不十分な部分が顕著に出ていると考えられる。</p>	<p>○火山・地震など、実験観察による学習が少ない領域では、知識の定着が不十分である。</p> <p>○植物のつくりや、分類分けなどでは、知識を使って活用しながら定着を図ることが不足している。</p> <p>○知識を分類したり、それを使って、原理を考えたりする力が不足している</p>	<p>○身近なものやモデルなどを例に出し、実際にみたり体験したりする活動を増やして、興味・関心を高め、知識を定着させる。</p> <p>○学習の目標を明確にし、ある現象の根拠や、その原理について、考えたり記述したりする力をつける。</p> <p>○学習した知識をつかって、考察する活動を取り入れる。</p>
3年	<p>○全体、領域、観点別の目標値は上回っていたが、単元別にみると、「化学変化と質量」が目標値を下回った。基本的な知識理解の定着は、図れているものの、「細胞観察の方法」の定着や「記述問題に対する回答のしかた」に課題があると考えられる。</p>	<p>○知識理解の定着は図れているが、知識を使って説明したり、実験から分かることを考察したり、「活用」の経験が不足している。</p> <p>○「実生活と電流回路」について、具体的に理解していない。</p>	<p>○習得した知識を活用した説明ができるグループ活動や既習知識を使って、考察を書くなどの活動を取り入れる。</p> <p>○どの単元においても知識の関連づけを行い、知識の活用を目指す。</p>

(5) 音楽科

<p>音楽科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 発達の段階に応じた音楽活動の基礎的な知識と技能の定着を図る</li> <li>● 音楽に興味・関心をもたせ、学習意欲を高める</li> <li>● 感じたことを自分なりの言葉で言い表したり書き表したりできるようにする</li> </ul>
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○真面目に意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。</li> <li>○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。</li> <li>○表現する語彙が不足している。</li> <li>○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。</li> <li>○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示、使えるようにする。</li> <li>○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。</li> <li>○振り返りシートを活用する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲をもって取り組む生徒と、消極的な生徒と二極化している。</li> <li>○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。</li> <li>○音量が不足している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。</li> <li>○表現する語彙が不足している。</li> <li>○読譜の知識が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合唱の練習を通して、模範となる上級生の声や歌い方を学ぶ機会を作る。</li> <li>○読譜に慣れるための発問を増やす。</li> <li>○振り返りシートを活用する。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱に対し、消極的な生徒が多い。</li> <li>○感じたこと、思ったことを適切な言葉で表現することが苦手である。</li> <li>○歌唱において、どのように表現したいか考えることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正しい発声法が身に付いていない生徒がいる。</li> <li>○自分たちの歌唱を聞いて、客観的に批評する力が不足している。</li> <li>○「どのように表現したいか」考えることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習曲を取り入れ、歌いやすい雰囲気を作る。</li> <li>○表現に必要な語彙、言い表し方の例を提示し、使えるようにする。</li> <li>○活動の録音、録画による振り返りの時間をもつ。</li> <li>○振り返りシートを活用する。</li> </ul>

(6) 美術科

美術科の重点

- 集中力を高め、意欲的に学び考え、表現することを楽しむ。
- 基礎基本の習得・活用を行い、創造的な技能を生かしながら自分らしさを表現していく。
- 感情や思いなどを自分なりの言葉で表現し深める。

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知的な好奇心が強く、意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>○ 鑑賞・制作共に興味を持って取り組みができる生徒が多い。</li> <li>○ 友人同士で作品のアドバイスの場面が多く見受けられる。途中からふざけ合う生徒もいる。</li> <li>○ 集中力が持続しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友人間でのアドバイスと遊びのメリハリがつけられない。</li> <li>○ 集中力が持続しない生徒が数人いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 制作とアドバイスをし合う時間を授業で明確に分ける。</li> <li>○ 生徒にとって魅力のある参考作品を用意し、意欲を高める。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知的な好奇心が強く、意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>○ 集中し、粘り強く細かい作業作品の質を高める生徒が多い。</li> <li>○ 鑑賞・制作共に興味を持って取り組みができる生徒が多い。</li> <li>○ 自分の意見をまとめ、発表することが苦手な生徒が多い。</li> <li>○ デザイン決定までのアイデアスケッチに時間をかけすぎる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の意見をまとめ、発表することが苦手な生徒が多い。</li> <li>○ デザインを決定するまでのアイデアスケッチに時間をかけすぎてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の意見をまとめるまえに、ワードや箇条書きなどで自分が何を感じたり思っているかを書き出す。</li> <li>○ まずは4人グループなど少人数の中で発表する。</li> <li>○ 制作残り時間と作業にかかる時間を可視化する。また、何度も確認をする。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知的な好奇心が強く、意欲的に取り組む生徒が多い。</li> <li>○ 鑑賞・制作共に興味を持って取り組みができる生徒が多い。</li> <li>○ 授業で教えたことを授業外の学校生活や私生活で生かそうとする生徒が多い。</li> <li>○ 文章に書かせると感情豊かに表現できる。</li> <li>○ デザイン決定までのアイデアスケッチに時間をかけすぎる。</li> <li>○ 提出の締め切り間近になると、あわてて失敗したり、雑になってしまう生徒が複数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ デザインを決定するまでのアイデアスケッチに時間をかけすぎてしまう。</li> <li>○ 提出の締め切り間近になると、あわてて失敗したり、雑になってしまう生徒が複数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 制作残り時間と作業にかかる時間を可視化する。また、何度も確認をする。</li> </ul>

(7) 保健体育科

<p>保健体育科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高める。</li> <li>●体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。</li> <li>●公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。</li> <li>●健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。</li> </ul>
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎体力が不足。</li> <li>○授業規律の確立。</li> <li>○投力・持久力が不足している。</li> <li>○自ら運動技能を高めたり・体力を向上させようという態度の不足。</li> <li>○運動の特性の理解が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動時間の確保。</li> <li>○授業規律の確立。</li> <li>○投力・持久力の向上に関する補助運動の実施。</li> <li>○安全に配慮した指導の実施。</li> <li>○運動の特性の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動を工夫し、基礎体力の向上を図る。</li> <li>○教師の指示が伝わるよう視覚的な物を利用し、目標や自分の動きを明確にする。</li> <li>○授業において目的をはっきり提示し、達成するための取組を具体化する。</li> <li>○自分のことだけでなく、周りの安全面にも配慮できるようにする。</li> <li>○特性を理解させるため視覚的な教材を活用する。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎体力が不足している。</li> <li>○主体的に学習していく態度が身に付いていない。</li> <li>○自ら運動技能を高めたり・体力を向上させようという態度が身に付いていない。</li> <li>○得意生徒と不得意生徒が多くいる単元がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動時間を確保する。</li> <li>○主体的に学習していく態度を育成していく。</li> <li>○運動・健康に対する興味の習得。</li> <li>○安全に配慮した指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動を充実させ、基礎体力を向上させる。</li> <li>○係生徒を中心とした自主的な授業形態を継続する。</li> <li>○ワークシート、学習カードを活用する。</li> <li>○授業内での個別指導の充実、達成感が得られるようにする。</li> <li>○互いに協力し合い、安全に実践するためにグループ学習を進め、教え合い活動を充実させる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎体力は向上してきた。</li> <li>○心身の健康に対する関心が不足。</li> <li>○自ら運動技能を高めたり、体力を向上させようという態度に個人差がある。</li> <li>○部活動引退後、運動量が減るため、習得に時間を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動時間の確保。</li> <li>○心身の健康に関心を高め、生涯にわたってスポーツに親しむための基礎を身に付つける。</li> <li>○体を動かすことの楽しさを実感させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動を工夫し、基礎体力向上を目指す。</li> <li>○係生徒を中心とした自主的な授業形態及びグループによる教えあい形態を確立していく。</li> <li>○ワークシート、学習カード、視覚的教材を活用する。</li> <li>○授業内での個別指導で技能を向上させ、達成感を味わわせる。</li> <li>○課題解決のため各自が考え、工夫し、さらにグループ学習で互いを高めあえる授業の展開を進める。</li> <li>○ゲームを多く取り入れる。</li> </ul>

(8) 技術・家庭科（技術分野）

<p>技術科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●安全危機管理を十分おこなう。</li> <li>●本時の授業達成目標を明確にさせ、授業に臨ませる。</li> <li>●実習時の「作業」と、「説明を聞く」の、けじめをつけさせる。</li> </ul>
--

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	知識及び技能において基礎・基本の定着に課題がある。また、生徒によって個人差があるため、個に応じた対応が必要である。	授業規律に課題があり、実習を進める際のルールやマナー等を確立する必要がある。意欲や技能の差が大きいことで製作の進度に差ができています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の計画を示し授業の流れと見通しをもたせ、達成目標を明確にする。</li> <li>・グループ学習や生徒相互のサポート体制も整え、進度の差をなくすようにする。</li> </ul>
2年	知識及び技能において基礎・基本の定着に課題がある。また、生徒によって個人差があるため、個に応じた対応が必要である。ものづくりに対する意欲は高い。	実習への意欲は高いが、作業に関する基礎的な技術に差がある。用具の正しい使い方の理解や正しく使おうとする意欲にも差があるため、授業の進度の調整が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れと達成目標を明確にし、学習環境を整え、ゆっくり繰り返し説明し、理解させることで基礎的な知識、技能の習得と進度の安定を図る。</li> <li>・全体と個々に対応する二本立てで指導を進める。</li> </ul>
3年	ものづくりに対する知識、関心・意欲ともに二極化していることにより、実習ではつまづきのある生徒への個別対応が必要である。	用具の取り扱いや知識に関しては個人差が大きい。少数ではあるが意欲や理解力に乏しい生徒がおり、授業進度の調整が課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れと達成目標を明確にし、集中力を高めさせる。実習では見本を提示し、目で見て理解したり、やってみようという意欲を高める。</li> <li>・作業の遅い生徒については補充授業を行い進度調整を行う。</li> </ul>

(8) 技術・家庭科 (家庭分野)

<p>技術・家庭科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得。</li> <li>●生活と技術とのかかわりについて理解を深める。</li> <li>●進んで生活を工夫し創造する能力を育てる。</li> <li>●上記の内容を実践する態度を育てる。</li> </ul>
--

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識が不足・向上心はある。</li> <li>○基礎的な技能・意欲がある。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験想像力が不足している。</li> <li>○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識を増やし、定着させる。</li> <li>○基礎的な技能を身に付けさせる実習を工夫させる。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術の経験や向上心や意欲をもてるように体験の習得の工夫・向上心や意欲を持てるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室内で静かに説明を聞き、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。調理実習では家庭生活に結びつくようにする。</li> <li>○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。</li> <li>○食生活の知識や技能向上が生活の中に必要であることを考えさせる。</li> </ul>
2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識・向上心がある。</li> <li>○基礎的な技能（被服技能）が不足している。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験創造力が不足している。</li> <li>○自分の生活に結び付けて学習することが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識を増やし定着させる。</li> <li>○基礎的な技能を身に付けさせる実習を工夫させる。</li> <li>○自分で考え意欲的、能動的に学習し、作業する態度を育成させる。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術の経験や体験の習得の工夫・向上心や意欲を持てるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教室内で静かに説明を聞き、必要事項を記入する習慣を身に付けさせる。</li> <li>○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする。</li> <li>○自分らしさや達成感を得られるような作品になるようアドバイスする。</li> <li>○自分の体に身に着けるもの作ることによって衣生活の楽し差を知れるようらせるようにする。</li> </ul>
3 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いた授業を受けている。向上心はある。</li> <li>○基礎的な技能が不足している。</li> <li>○主体的に学習する態度や発展して考えることが不十分である。</li> <li>○作業に見通しをもって取り組む姿勢がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎的な知識を増やし定着させる。</li> <li>○基礎的な技能を身に付けさせる実習の工夫が必要である。</li> <li>○社会の一員として自発的に、作業する態度を育成させる。</li> <li>○生活する上で必要な基本的な技術を工夫して体験させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調べ学習の課題をレポートにしたり、発表したり思考力を身につけさせる。</li> <li>○ワークシートを活用し、授業の見通しをもたせ、生徒自らが動けるようにする</li> <li>○達成感を得られるような作品になるようアドバイスする。</li> <li>○自ら進んで作品を作り周囲の人々との交流をする。</li> </ul>

(9) 英語科

<p>英語科</p> <p>英語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●異文化理解を通じて視野を広める。</li> <li>●実践的コミュニケーション能力の育成。</li> <li>●協働学習や発表を通して、4技能(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の力を高める。</li> </ul>
---

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
<p>○積極的に活動に参加している生徒が多く、特にコミュニケーション活動への関心・意欲が高い。</p> <p>○英語以前の問題で、書字に対して苦手意識の強い生徒も見られ、書くことに課題がある生徒がいる。</p>	<p>○書字に関して苦手意識を持っている生徒への意欲を持たせる働きかけ。</p> <p>○個々の能力の違いを生かし、高めるための工夫。</p>	<p>○単語や英文は、文字だけでなく絵やイメージでできるようなPCを利用したサポートを行う。</p> <p>○TT指導によるきめ細かい指導を行う。できるだけ授業内でサポートし、自己評価を見ながらアドバイスを行う。放課後の個別指導も視野に入れる。</p>	
	<p>○話し合い活動などは積極的に授業に参加しているが、自分の考えたことを英語で発したり、文字に起こすことが苦手なようである。</p> <p>○都学力調査の結果から、すべての項目とも都の平均値を上回っているが、表現に比べ、技能や知識の項目の正答率は上がり幅が低い。</p>	<p>○学習内容の定着に差があり、書く力や自己表現の幅にも個人差が見られる。更なる底上げが必要。</p> <p>○実用的な場面を考え、文法を導入することで、表現力の向上を狙う。</p>	<p>○ペアで話し合う機会をさらに増やし、対話的な学びを徹底する。</p> <p>○個々の課題提出等へのきめ細かい指導と家庭との連携をおこなう。</p> <p>○基礎基本の確実な定着のために、普段の授業から復習の単元を取り込む。</p> <p>○オーセンティックな教材を使用し、学ぶ英語から使う英語への転換を図る。</p>
	<p>○観点別正答率、領域別正答率ともに、すべての項目で10ポイント以上目標値を上回っている。</p> <p>○問題内容別に分析すると、動名詞の語法のみ目標値を下回っているため理解が不十分であることがうかがえる。英文や問題演習の中での定着をはかる必要性を感じている。</p>	<p>○学習内容の定着に差があり、書く力や自己表現の幅にも個人差が見られる。</p> <p>○音読への意識・取り組みが低くなっている。</p> <p>○長文を読む際に、あきらめずに最後まで読もうとする姿勢を育成させる。</p> <p>○基礎基本の徹底と協働学習、表現活動を効果的に取り入れる。</p>	<p>○UDLを踏まえた指導法の見直しと個々の伸張を意識した授業の改善を図る。</p> <p>○既習事項の復習を兼ねた継続的な言語活動の実施。</p> <p>○継続的な音読指導を実施するとともに、家庭学習とのリンクを図る。</p> <p>○小テストの実施とテスト結果を踏まえた継続的な指導を実施する。</p> <p>○英語長文の読み方指導の工夫を図る。</p> <p>○ペア、グループ活動の工夫と互いに学び合い高めあう人間関係作りを指導する。</p>

少人数指導の充実 (任期付短時間勤務教員活用の工夫)

1学年ではTTによる指導を行い、適宜、基礎基本の定着のフォローを行っている。特に1学年の段階では習熟度の幅が広いので、サポートが必要な生徒へのきめ細かな指導を徹底している。

ALT活用の工夫

ALTによるスピーキングをモデルとし、生徒のパフォーマンス活動につなげていく。また、ALTによる生徒とのやりとりを数多く設定することでコミュニケーションの機会を増やしている。